

令和 4 年度高根台公民館事業計画

1. 地域の状況

高根台公民館は平成 8 年 5 月 25 日、市内で 24 番目の公民館として、地域住民に待ち望まれて開館した。対象区域は高根台 1～6 丁目で、東西約 1.8km、南北約 0.8km と東西に長く、管区内の一番遠い地点でも公民館から直線距離で 1.4km と管区は全て徒歩圏内といえる。対象人口は令和 4 年 4 月 1 日現在、12,546 人、世帯数 6,658 世帯で、その中心となるのが高根台団地であり、その他の地域も住宅地と商業地である。

人口の構成としては、令和 4 年 4 月 1 日現在、65 歳以上の高齢化率が 33.8%と市内のコミュニティでは非常に高く、高齢化が進んでいる地域である。

公民館は新京成線高根公団駅から徒歩 2 分と交通至便で、多くの市民に利用されている。

2. 地域の課題

- (1) 65 歳以上の人口割合が高く、かつ高齢者の孤立や地域内の人と人とのつながりが希薄と心配する方の割合が市全体平均と比べ高い状況であり、仲間づくりにつながる場が求められている。
- (2) 生涯学習に関するアンケートでは、生涯学習に関する情報取得手段として、中部地区では「広報ふなばし」・「楽しく学ぼうふなばし」などの紙媒体から情報を取得する方が多く、IT 機器を使用し情報を取得する方が他の地区に比べ非常に低い。引き続きデジタルデバイス対策事業を推進する必要がある。また、近隣の高齢者向けマンションへの入居が進み、他自治体からの転居者から公民館で行われているサークル活動や事業などに関する問い合わせが多いことから、わかりやすく丁寧に公民館の情報を発信する必要がある。
- (3) 生涯学習に関するアンケートでは、今後希望する学習形態として学校の講座や教室、同好者が自主的に行っている集まりサークル活動を希望する割合が高い。新型コロナウイルス感染症の影響により、各事業やサークル活動へ参加する意欲が失われている傾向が見られることから、地域の実情に応じた事業の実施、地域人材の活用、団体の育成・支援などを図る必要がある。
- (4) 生涯学習に関するアンケートでは、公民館を利用している方や継続して何かを学んでいるという割合が高い。公民館が地域の拠点として、より一層施設の利活用が促進されるよう取り組む必要がある。
- (5) 生涯学習に関するアンケートでは、仕事や学校などがある日で、学習や活動をするのにもっとも都合のいい時間帯は夜（18：00～21：00）である。また、ミドル世代（30～50 歳代）の公民館利用が低い状況にある。このことから、夜の時間帯で事業を計画・実施するとともに、世代のニーズに応える事業が求められている。

3. 重点目標

- (1) 地域住民のつながりや仲間づくりにつながる学びの場や学習・活動をはじめのきっかけづくりとなるような学習機会を提供していく。
- (2) 情報取得の格差解消（デジタル・デバイドの解消）を図るため、スマートフォン講座の実施回数を増やすとともに、ICT 機器や Wi-Fi 環境などを活用し、情報取得方法を学ぶ機会を積極的に提供していく。また、誰もが容易に公民館の情報を取得できるよう、館報やチラシなどのアナログによる情報提供とホームページやフェイスブックなどのデジタルによる情報提供のそれぞれ良い面を活かし、積極的な広報活動を実施していく。
- (3) 住民の主体的な学習活動の推進を図る。あわせて、学習成果を地域に還元するため活動の機会を提供するとともに、社会教育関係団体や地域の人材の活用を図り、連携・協働した事業を実施していく。
- (4) 地域住民が公民館を継続的に使用していただくために、時代に即した事業を実施するとともに、公民館活動を活性化させる。
- (5) ミドル世代の利用促進を図るため、夜の時間帯でリカレント教育を実施する。
- (6) 町会・自治会をはじめ地区社会福祉協議会等、地域の諸団体の活動を支援し、地域社会の発展に寄与するとともに、協働で事業を行うことにより地域力の向上を図る。
- (7) 様々な事業を通して、学校教育と社会教育の連携をより一層深めるとともに、あわせて児童ホームとの連携などにより、次代を担う子供たちの体験を通じた成長や発達を支援する。また、子育てに関する学習、情報交換、交流の機会を提供し、子育て支援、家庭教育事業の充実を図る。
- (8) 様々な部局によるサービス提供の場として、公民館を使用することが多くなってきたことから、今後も市民の利便性向上のため、他部局関係各課との連携・協働を推進する。
- (9) 基幹公民館として、ブロック内の連携を密にして広域的な事業を実施する。また、施設・設備の適切な維持管理に心掛け、各職員が働き甲斐のある職場環境づくりに努める。
- (10) 改修工事に伴う休館期間について、地域・利用者などに丁寧な対応を心掛け、サークル活動が継続できるよう支援する。

【様式4】

令和4年度夏見公民館事業計画

1. 地域の状況

令和4年4月1日現在、人口27,771人、世帯数12,441世帯の夏見地区は、管区内に小学校2校、中学校1校が所在し、都心への通勤・通学に便利なことから、戸建て住宅、集合住宅がともに増え続け、落ち着いた住宅街を形成している。日枝神社の一角に立地する公民館の周辺は宅地の開発が進んでおり、人口はほぼ横ばいだが、世帯数は若干増加している。

現在、公民館区内の人口構成は、他地域と比較すると、子育て世代である30～50代の人口の割合が高く、60代からの対総人口比率は低くなっている。

2. 地域の課題

- (1) 公民館区内の高齢化率が、他地域よりは緩やかではあるものの、年々高まってきている。
- (2) 約2年間にわたるコロナ禍での暮らしを経て、外出自体に抵抗を感じるなど心身ともに縮こまり、社会活動に消極的な高齢者が増えている。
- (3) 公民館隣接の八栄小学校の著しい児童数増加に伴う教室数不足に公民館施設を提供するという、公民館運営上の新規課題への対応が求められている。
- (4) 社会全体の生活様式の変化に伴い、デジタルデバйд対策が必要である。

3. 重点目標

- (1) 「そうだ！ 公民館に行こう」と、日常生活の中で公民館を思い出して足を運びたいとなるような施設を目指す。
- (2) 「夏見シネマサロン」をはじめとした通年事業の複数実施とあわせ、「夏見文庫」の充実等、来館促進コンテンツの整備を図る。
- (3) 「今」を生きる高齢者の健康や教養に寄与する学習を充実させる。
- (4) 船橋市の「未来」を支える青少年を対象とした事業の充実に努める。
- (5) 対面での事業にオンラインの活用を組み合わせ、より多くの人への学習の機会を提供する。
- (6) 人生100年時代を生き抜く力を養う機会を提供する。
- (7) デジタルデバйд対策に関する事業を実施し、年齢や環境による情報格差の縮小に努める。

令和 4 年度高根公民館事業計画

1. 地域の状況

高根公民館の管区は高根町・金杉町・金杉・金杉台・緑台からなり、面積は約 4.3 km²で、令和 4 年 4 月 1 日現在の船橋市年齢別人口統計によれば、人口 15,515 人、世帯数 7,640 世帯である。

地域は船橋市のほぼ中央に位置し、市街化区域と市街化調整区域が混在しており、豊かな自然が現在も残されている。

この地域には縄文時代の上高根貝塚、弥生時代後期の立場遺跡、室町時代後期の高根城跡などがあり、古く歴史のある地域である。昭和 12 年の 2 町 3 村(船橋町・葛飾町・八栄村・法典村・塚田村)の合併により市制が施行される以前は旧八栄村の一部であった。

昭和 46 年 8 月に金杉台団地、同年 10 月に船橋グリーンハイツの入居が開始され、一時期は地域の人口が急激に増えたが、現在は少子高齢化が進んでいる。

2. 地域課題

- (1) 地域住民の高齢化率が市全体と比べて高く、今後も高齢化は進んでいくだろうと思われる。加えて近年の新型コロナウイルス感染症対策(三密を避ける、不要不急の外出はしない)でコミュニケーションがとれない状況が生まれている。それに伴い孤立しがちな高齢者に生きがい、仲間づくり、健康増進の場を提供していく必要がある。(生涯学習に関するアンケート p91)
- (2) 地域住民が新たに始めたい学習として、健康・スポーツ・趣味・教養などがあがっている。このような多様なニーズに対応した学習の機会を提供していく必要がある。(生涯学習に関するアンケート p58) 特に高齢者向けデジタルデバインド事業は関心が高い。
- (3) 社会教育関係団体の会員の高齢化や減少による解散が増えていることから、団体の活性化や支援を図る必要がある。
- (4) 地域の青少年に公民館をより多く利用してもらうために、今まで以上に青少年の事業の充実を図っていく必要がある。

3. 重点目標

- (1) 地域コミュニティの拠点として、誰もが気軽に集うことができる親しみやすい公民館を目指す。また地区自治会連合会等との事業の連携・協力において、地域住民の結びつきをより一層強くし、地域社会の発展と地域力の向上に努める。
- (2) 高齢者の生きがい、仲間づくり、健康づくりを推進する。
- (3) 高齢化により利用者が固定化しているため、普段公民館を訪れない層の利用も事業等で

促進していく。

- (4) 地域の特性・住民のニーズを把握し、現代的課題や地域課題に対応した事業を展開し、学習の機会と交流の場を提供する。また、様々なライフステージに応じた事業を展開し、日常生活の充実や向上を図る。情報収集のためのデジタルデバイト事業も開催する。
- (5) 館報「たかね」の発行やホームページを活用し、公民館の活動や運営に理解を得るとともに、情報を提供する。
- (6) 社会教育関係団体の活動を支援し、サークルの活性化・維持発展に努める。
- (7) 学校・青少年育成団体・地区社会福祉協議会・児童ホームなど各種地域団体と連携し、青少年の健全育成を目指す。地域の資産も活用し、青少年が気軽に参加しやすい魅力的な事業の開催に努める。
- (8) 利用者の安心安全を確保するために、施設・設備・備品等の保守管理・運営に努め、利用環境を補助する。また、非常時に迅速に避難所運営ができるよう日頃から備えておく。

令和 4 年度 新高根公民館事業計画

1. 地域の状況

新高根公民館の対象地域は、市の中部地区に位置する新高根 1～6 丁目、芝山 1～7 丁目、高根台 7 丁目である。面積は、約 2.5km²、対象人口は令和 4 年 4 月 1 日現在、27,767 人、世帯数 13,390 世帯で、閑静な住宅地域である。

人口の構成としては、令和 4 年 4 月 1 日現在、65 歳以上の高齢化率が約 31.2%と市内のコミュニティでも割合を大きく上回っている。現在も少子高齢化が進んでおり、今後ますます進むことが推測される地域である。

こうした状況を踏まえ公民館の対象地域では、自治会町会、地区社会福祉協議会が中心となり、課題解決につながる活動や地域住民同士の仲間づくりや健康づくり、生きがいくりにつながる活動などが活発に行われている地域である。

2. 地域課題

- (1) 公民館区内に土砂災害危険箇所があり、地域の災害に対する懸念が強い地域であるため、地域の防災意識の高揚を図り、防災体制の確立が必要である。
- (2) 未就園児等の保護者が交流できるよう児童ホームと連携し、安心して子育てができるための情報発信と保護者同士が交流できる場の提供が求められている。
- (3) 地区高齢者の運動機能低下者の割合は低い。一方で、高齢者の独居世帯などといった孤立化に対する懸念は市内でも高い状況となっている。
- (4) 地域において「人と人とのつながりが薄い。」と感じている方の割合が高く、他人との交流の場の提供が求められている。

3. 重点目標

- (1) 地域コミュニティの拠点として、誰もが親しみやすく、地域に密接した公民館を目指す。
- (2) 地域の町会・自治会、地区自連や関係諸団体、また、行政等が行うイベント等に積極的に協力し、地域と連携した公民館運営に努める。
- (3) 地域の町会・自治会、地区自連や NPO 団体等の協力のもと、地域住民と一緒に防災計画を考えて意識の高まりを図るため、より多くの世代が参加しやすい内容の防災事業を実施していく。
- (4) 社会福祉協議会や子育てサークルと連携しながら、若い世代の要望意見を取り入れた子育て

て事業の充実を図る。

- (5) 高齢者が継続的に健康づくりに取り組める事業だけでなく、講座内での交流を目的とした事業やサークル化を促進する取り組みも行い、明るい地域づくりに貢献していく。
- (6) 公民館報やホームページ等を活用し、公民館の講座・イベント等やサークル活動、地域活動などの発信を行い、公民館の充実を図ると共に若い世代や普段、公民館を利用されたことのない人達も公民館を利用してもらえるような取り組みをする。